

山根 勢五(やまね・せいご)

1、プロフィール

歌人。暁星短歌会・陸奥短歌協会・あのなっすそさえての結成に参加。昭和 41 年1月に宮中歌会始に入選。平成5年7月に「生や畢んぬ」30 首で第 36 回短歌研究新人賞候補入選。

<生没>

1925(大正 14)年9月 30 日～2015(平成 27)年9月 10 日

<代表作>

第 36 回短歌研究新人賞候補入選作品の「生や畢んぬ」30 首。平成5年7月に発表。

<青森との関わり>

八戸市に生まれ、八戸市に住み続けた。福士幸次郎の地方主義に共鳴して、村次郎と共に歩んだ。

2、作家解説

大正 14(1925)年9月 30 日、八戸市港町に生まれる。昭和 20(1945)年3月に旧制青森県立八戸商業学校を卒業。昭和 20 年4月から昭和 24 年8月まで八戸市立工業学校教諭で国語科を担当。昭和 27 年7月から昭和 63 年4月まで八戸鱗光冷蔵株式会社に勤務する(退職時は常務取締役)。

昭和 17 年5月に暁星短歌会結成に参加。昭和 21 年2月に陸奥短歌協会結成に参加して事務局長。昭和 22 年3月に村次郎主唱の「あのなっす・そさえて」に参加。昭和 41 年1月に宮中歌会始に入選。同年 11 月に第1回八戸文化奨励賞を受賞。昭和 51 年1月から 52 年1月まで「フジ画廊覚え書」を「うみねこ」に連載。昭和 54 年4月に『昭和萬葉集』第7巻(講談社)に短歌作品が収録される。昭和 58 年1月、省エネルギー論文が科学技術庁長官賞を受賞。昭和 59 年 11 月に八戸市文化賞を受賞。昭和 60 年4月に村次郎詩集復刻版を刊行して代表を務める。

昭和 61 年 11 月から平成 3 (1991) 年 1 月まで「みなとはちのへ物語」を「うみねこ」に連載。昭和 63 年 9 月に滝尻善英著作の『八戸御城下三十三番札所巡り』(デーリー東北新聞社)に札所毎に現代新御詠歌を作詠。平成元年 4 月に八戸市立東中学校校歌を作詞。平成 2 年 11 月に八戸文化功労賞を受賞。平成 5 年 7 月に「生や畢んぬ」30 首で第 36 回短歌研究新人賞候補に入選。平成 7 年 10 月に八戸近代史研究会の一員として『きたおうう人物伝』(デーリー東北新聞社)を出版。平成 10 年 6 月から 13 年 3 月まで「村次郎ノート」を「うみねこ」に連載。

清遠短歌会代表、八戸美術連盟顧問、八戸近代史研究会同人、ウォーキングクラブ MTC21 顧問を務めた。

3、資料紹介

○「生や畢んぬ」30 首

1993(平成 5)年 7 月

昭和 61 年の先天性僧帽弁閉鎖不全症での心臓手術体験をモチーフに「生や畢んぬ」という題で 30 首にまとめる。平成 5 年 7 月の短歌研究新人賞候補作品。意識の暗黒会をリアルに詠う。「紡錘形にきらめき時間が遠去かる／されば一期の生や／畢んぬ」等の作品。